

平成26年度第3回青森市指定管理者選定評価委員会（会議概要）

- 1 対象施設 青森市立浪岡中央児童館ほか7施設
- 2 開催日時 平成26年10月27日（月） 10:30～12:00
- 3 開催場所 青森市役所第3庁舎1階入札室
- 4 出席者
 - (1) 選定評価委員 委員長 相馬 紳一郎（市民政策部次長）
委員 舘田 一弥（財務部理事次長事務取扱）
委員 永澤 保弘（農林水産部次長）
委員 米谷 智（都市整備部次長）
委員 池田 享誉（青森公立大学准教授）
委員 西村 晴夫（東北税理士会青森支部税理士）
 - (2) 施設所管課（事務局） 健康福祉課 課長 山口 朋子
副参事 加福 拓志
主幹 須藤 裕二
主査 山内 武志
 - (3) 制度所管課 政策推進課 課長 佐々木 淳
主幹 福島 清裕
主事 小野 寛史
- 5 欠席者 鈴木 裕司 副委員長（総務部理事次長事務取扱）
- 6 議題 指定管理者候補者選定に係る審査

7 会議概要

(1) 応募資格

事務局から、応募団体が応募資格要件を全て満たしていることを確認した旨を報告。
（質疑なし）

(2) 選定基準による審査

【収支計画】

事務局から、市の指定管理料基準額及び応募団体の指定管理料提案額を説明。

委員：委託料の内訳が、市と応募団体で異なるのはなぜか。また、備品にはどのようなものがあるのか。

事務局：市が委託料として積算している樹木管理業務については、応募団体が自ら行うこととしている。また、備品には、一輪車等の遊具がある。

【管理運営方針】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：事業計画書には「可能な限り障がい者を雇用する」とあるが、現在の指定管理業務において、実際、障がい者は雇用されているのか。

事務局：現在のところ、障がい者の雇用はない。

【地域や関係団体との連携】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：応募団体の役員には、関係団体の代表者等も入っているのか。

事務局：入っている。応募団体は浪岡地区の「中世の館」の指定管理者でもあることから、「中世の館」で実施している事業や、児童館との連携を必要とする事業について、そのネットワークを活用している。

委員：応募団体は、どのような活動をしている団体なのか。

事務局：浪岡地区を中心に、歴史・文化・伝統に関する事業を展開し、子どもへの歴史教育や、地域住民との協働による街づくりの推進を図る活動をしている。9人の役員で構成されているが、その全員が浪岡地区の商工業に携わる者である。

委員：応募団体は、浪岡地区の行事に深く関わっているとのことだが、行事の際は、後援や共催を行っているのか。

事務局：北畠まつりに関しては実行委員会を組織しているほか、地域の様々な行事を主催または共催している。

【地元雇用への配慮】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【職員等の配置計画】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【職員の雇用・労働条件について】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【職員等の研修計画】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：事業計画書にある「職員心得」とは何か。

事務局：業務を行うに当たっての心構え等が書かれており、採用時に配付することである。

委員：事業計画書に「職場体験のための実習生の受入れ」とあるが、今年度の実績はあるか。

事務局：平成26年度の実績はまだないが、これまで、市外にある保育専門学校から実習生を受け入れた実績がある。実習生の受入れは、求めがあった際に応じているもので、積極的に勧誘しているものではない。

委員：職場内研修における毎朝と午後のミーティングはどのような内容のものか。また、年1回の接遇研修とはどのようなものか。

事務局：朝のミーティングでは、前日からの確認事項や業務連絡等を行い、午後のミーティングでは、午後から勤務する職員のための業務の打合せ等を行っている。接遇研修については、職場内研修の一貫として、館長会議や各館の職員会議の場で実施しており、過去には講師を招いて研修を実施した実績もある。

【施設管理計画】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【防犯、防災、緊急時の対応に関する取組】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：危機管理マニュアルは、申請書類には添付されていないのか。

事務局：申請書類には添付されていないが、危機管理マニュアルが整備されていることは確認している。

委員：「避難訓練を実施する」とあるが、その記録は残されているのか。また、どのような方法で訓練を実施するのか。

事務局：避難訓練は月1回実施することとしており、毎月、報告書も作成されている。火災や地震の発生を想定し、実際に子どもを避難させる。また、不審者対策の訓練も実施している。

【個人情報保護の取扱いに関する取組】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：市では、施設の施錠確認を行うのか。

事務局：不定期ではあるが、月3回程度、施設の施錠確認を行っている。

【環境保全、負荷低減への取組】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【市民の平等な利用を確保するための方針】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【利用者等の要望等の把握と反映方法】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：「浪岡地区児童館運営協議会」及び「運営協力委員会」はどのようなメンバーで構成されているのか。

事務局：「浪岡地区児童館運営協議会」については、社会福祉関係者として、浪岡地区主任児童委員、地域団体関係者として、浪岡中央公民館館長、浪岡保育連絡協議会会長、並びに浪岡地区子ども会育成連絡協議会会長、学識経験者として、みらい子育てネット青森地域活動連絡協議会員及び大栄小学校校長で構成されている。「運営協力委員会」については、町内会長や地域の民生委員等で構成されている。

【サービス向上の対策】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

【来館者を増加させるためのPR及びイベントの実施計画又は自主事業】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。

委員：子どもの祭典には、青森地区の子どもも参加しているのか。

事務局：それほど多くはないが、青森地区から参加する子どももいる。

【同種の施設管理業務の実績】

事務局から、選定基準、市の水準、審査の着眼点並びに応募団体の申請内容を説明。
(質疑なし)

(3) 審査結果

委員長：集計の結果、「特定非営利活動法人NPO 娑婆羅凡人舎」の得点は101.87点であった。また、これは最低得点である71.5点を上回っていることから、当該団体を指定管理者候補者としてよろしいか。

委員：(全員、異議なし)

委員長：それでは、「特定非営利活動法人NPO 娑婆羅凡人舎」を青森市立浪岡中央児童館ほか7施設の指定管理者候補者とする。